

5C②キングダムセミナー 20250208

アナウンス：

今日は、セミナーを始める前に、アナウンスを何点かさせて下さい。

このラインのグループは30名くらいになっていますので、このセミナーのための皆さんへの連絡、報告事項として、ライングループを使っています。今まで何年もセミナーのラインとしてやってきています。昔は、このラインの中で交わりたいという方々もいらっしゃいました。その気持ちはわかりますけど、この**ラインの使い方は、全員に対する『お知らせ』ということに使っています**ので、どうぞ個人から個人に対するラインのメッセージは、やめておきましょう。個人から個人に送る場合は、どうぞ個人ラインをつないで、あるいは電話で、メールで、やりとりをしましょう。

ですから、もう、お分かりのことだと思いますけれども、皆さんに良いと思って、いろんな資料や情報を流したいという場合もあると思いますが、それもやっぱり、みんながそれをやりだすと、もう収集がつかなくなってくるので、**色んな情報やメッセージをこのLINEの中で我々がやり合うということは、控えておきましょう**。そういう姿勢で、どうぞ第5クールの始めにあたって、お願いします。

それから、いつも録音をしてくださって、そしてアップしてくださって、もちろん本当にありがたいことです。感謝しています。ですからみんな、TOMOさんにありがとうという気持ちはあるんですけど、30人全員がありがとう、ありがとう、言い合ってもね。**だから、もうそれは「ありがとうというのは分かっているよ」ということで。**それと奏楽をしてくださっている山田さんも含めて、色々皆さんの助けの中で、できているものですから、みんな感謝なんです。

それに、このキングダムセミナーを深くやってくると、だんだんと実感してくると思いますけど、私達はね、例えば奏楽してくださるとか、録音アップしてくださるとかという奉仕は、よく皆さんに認知されますけれど、皆さん、我々の奉仕というのは、人々に仕えているということは何ですか？これと言った形がなくても、我々が**『神の中に存在している』**ということ自体が、**『奉仕』**ですから。これ、段々、深く分かってくると思います。もう段々自分の身についてきた方もいらっしゃると思います。**あなたが存在しているだけで、奉仕なんです。存在しているということが、あなたのミニストリーです。何をするでもない。何を語るでもない。それが、ですよ。**

例えばこの今、対面の方々は、私達は向き合って座っています。で、ラインの方々も、アイコンだけだけど、名前とあなたの存在があります。おそらく、今、ラインに参加していない方は、録音で聞かれるでしょう。でも、**我々は神の中に共に存在しているんですよ**。おもに話しているのは私ですけど、私は一人、ここで独り言をぶつぶつ呟いているわけではないですよ。あなたというお相手がいるから、話せるわけです。そうですね。

そうすると私は話してるけど、**向き合っているあなたの中から出る『存在のメッセージ』がある。それに対して、私は『応答』して、また話せるわけだから、我々はお互いに『存在のミニストリー』の上に、出会っているんです。**ですから、**『ここにいる』**ということ、**『あなたがそこにいる』**ということに価値があるわけです。そして、**『互いに耳を傾けている』**ということに、価値がある。このことも後で触れますけれども、とても大切なことです。**ですから、『存在』することが、我々は互いの奉仕ですから、もう互いに感謝し、「ありがとう」なんです。**

5C②キングダムセミナー 20250208

これは主に対して、この兄弟姉妹をあなたが産み育ててくださって感謝ですということです。なので、LINEの使い方において私たちは、「ああ、TOMOEさんありがとう。」「ああ、山田さんピアノありがとう。」「聞いて下さっている方、ありがとう。」「ありがとう」と言って・・・「ありがとう」なんです。けど、その魂的な私たちの情や思いというものを超えてね、もっと突き進んで、神の中の『互いの存在のミニストーリー』を祝福しあおうではありませんか。

そしたら、我々の関係性がまた一つ、ステップアップしていきます。バージョンアップしていきます。ですから、単なる人間的な"おもねり"や"遠慮"やこう言わなきゃ悪いだろうとかという"気遣い"を超えて、神の国の中で、自由で在りましょう。 8:12.87

はい、ラインのことはこれで終わりです。それから、この対面での場合の部屋の使用料として、費用がいりますから、皆さん、献金してくださっているんです。それもここは、3時間半でピアノの使用を含めて、1万3000円位いるんです。もう東京のど真ん中ですからね。それで、そのための費用としていつも皆さんが献金して下さっているんですが、それは、ずっと前からになりますから、今では、120,000円位、貯まっているんです。ですから、あと9回は、余裕で利用できます。なので、皆さん、早々に「献金しなくては・・・」と思わなくていいですよ。お陰様で、大丈夫です。自分のために使ってくださいね。またね、貯えが無くなってきた時は、献金袋を開けて置いておきますので。はい。まだ先々ありますから感謝です。神様が「まだまだ頑張れよ」と言って下さっています。「まだまだ、辞めるなよ」と言って下さっていますから。感謝です。はい、ということで、アナウンスしました。

それから、ラインの方々も皆さん、お体大丈夫ですか？いつも対面で来られている方が今日は、体調を崩してお休みの方も何人かいらっしゃいますから。皆さん、自分の体を本当に祝福してよく守っていきましょう。

参加者:賛美の時、聞こえが悪いので、その辺のところも、アナウンスをお願い致します。

先生:ああ、そうですね。あと、もう一つ、ありました。

賛美のことなんですけど、ラインの集会と対面の集会で、合同に賛美をすると、どうしても音の伝わりのタイミングがずれるみたいなので、特にラインの皆様にはうまく聞こえないみたいなんです。何かもっと違う良い方法をシステム化できたら良いのですが・・・。今のところ、LINE参加の方は、マイク オフで、お願いします。我慢してもらっています。すみません。それでも、楽譜だけは、写真撮ってアップした方がいいですよ。皆さん新しいもの、お手元にないですよ。では、今、LINEにアップしますね。みなさん、見れますか？
では、あと少し歌いましょう。

18番、神の子と呼ばれる

神の子と呼ばれるのに、何の我らの功績も、技も賢さもない必要ない。それは天の父の持っておられる初めからの存在の深さ、広さ、高さによります。

賛美

5C②キングダムセミナー 20250208

11 番、魂のわざ離れ

この歌詞も非常に深いです。

よく、歌詞をなぞりながら、歌っていきましょう。

主よ、あなたに捧げ報い求めず、歌え、ハレルヤ 叫べ我らのことばを。

我らのことばを。あなたに今立ち返る。二度と離れません。

・・・この二度と離れませんというのは、今まで信じていたのに、信じなくなった。で、もう一度信仰を持ちましたというそのレベルの『離れません』と言っているんではありません。神様を遠くに思って、「ああ、神様。」というのではなくて、神の真ん前に素顔で立って、主と向き合って、語り合っていこうという毎日。その神の前に立つ『あなたと私』のこの関係性に、私たちは踏み込んでいこう。踏み込んでいる。それを『二度と離れません』と言いたいわけです。

賛美 21:43.22

前半:

はい、それでは、第5クールの第二回目に入っていきます。

今の『魂のわざ離れ』という賛美ですが、私たちは霊のレベルで、使い合ひましょう。『存在のミニストリー』と言いましたけど。この歌詞の3番に、

〈主よ。あなたのしもべたちに仕えるために。主によって、私は生まれたのです〉とあります。

これ、我々の、みんなの告白なんですよ。主よ、あなたの僕達に仕えるために、私は主によって生まれたのです。私もそう。主よ、あなたの僕達（私以外）というのは、誰ですか？私と対面する皆さんのことを、一人一人を、主の僕たちと思っています。ですから、大事に対面しないといけません。その意味で今日、一人一人の私たちの出会いを祝福します。ラインの皆さんを祝福します。あとで、これを録音で聞いていらっしゃる方、録音で聞いている今、その出会いを祝福します。23:51.88

はい、それでは、セミナーを始めます。第一回目の時から、いきなりセミナーの本に、入っていません。なぜならば、キングダムセミナーの本に入る前提として、どうしても聖書の中から汲み取っておきたい土台があるからです。それで、それを創世紀の初めから、見えています。もう何回もこのところをお聞きになった方がいると思います。

創世記1章1節[初めに神は、天と地とを創造した] 2節[地は形なく虚しく何もなかった。闇が大いなる水の上にあり、神の霊は、水の上を動いていた。] 何度も言っていますように、どうぞ一つの小説か何か、脚本でも読むかのように、スラ、スラッと読まないほうがいいですよ。ゆっくり、じっくり、味わいながら読むことです。

[世界（天地）の基の置かれる前から、（神は）キリストにあって、（あなた方を）選び・・・]と、エペソ人の手第1章に、天地が造られる前からと、そう書かれてある。そして天上の諸々の祝福でもって、あなた方を祝福してください

5C②キングダムセミナー 20250208

っているということは、この天地が造られるという『神様の語りかけ』があるこの時に、もうすでに『神はあなたを覚えておられる』ということです。そうですね。26:42.68

「それって、遠い、遠い昔話の・・・私たちにしたらもう何年前のことですか?」「そんな昔の事を・・・」ということではなくて、『今、私たちはそこにいるんだ』ということです。それは、昨日読んでも、今日読んでも、明日読んでもです。10年前に読んだとしてもです。この21世紀の今、読んでも、です。まさしく、読んだ時、あなたの前に、父なる神が立ち、あなたに向かって朗々と、神の言葉をあなたに向かって、語って下さっているんです。27:53.29

今日、こうやって集まって、あるいは、ラインの方は家でおひとりで聞いておられるんですけど、周りの人がいてもいなくても、私たちはいつも、神と向き合い、父なる神の真ん前にいて、神の語りかけのシャワーを受けているんです。それがものすごく、初めの大切な点です。単なる理科の教科書や小説を読むのであれば、そんなことは必要ないのです。28:52.72

だから、創世記1:2[地は形なく、何もなかった。闇が大いなる水の上にあり、神の霊は水の上を動いていた。]ってどういう情景かという、この前も、前回は話しましたが、・・・この[『混沌』として、何もない。闇がある、形がない。]・・・これって何よ、ということですよ。

その神が語りかけた『語りかけ』は、目の前にいる『あなたの内側』に、それを語りかけておられるというわけです。それで、私たちは理屈ではなく、そのことになぜか、納得してしまうんです。そうではないですか?

私たちの内側では、神の霊が水の上に羽ばたいていて、『光が あれ』と神が言われる。それは、あなたの内側に神様が、働きかけ、触りかけ、語りかけて、そこに造り始められているということなんです。

[神様は、あなたの内側に光を造って、それを『善し』と見られた。この光を闇と区別された。この光を昼と名付け、この闇を夜と名付けた。]この作業、どうですか? 『見て、区別して、名付ける』という作業。あなたの内側で、これを神様が着実になされているんです。このことを私たちは『自分に受け止める』ことです。31:09.63

このように私たちの内側の『空間』の中に、そして我々の『時』というもののの中に、そして、日常の全部の環境の中に、種類がいっぱいあるさまざまな複雑な環境の中に、私たちを造ってくださった。それら全部、我々の内側にあるんです。32:15.82

そして、第6日目に神様は[我々に似るように、我々の像に人を造ろう。][この造ったすべてを、『彼らに支配させよう。』『治めさせよう』と仰せられた。]神様が言われた言葉は、特に注目です。32:50.00

5C②キングダムセミナー 20250208

そして、27節に[神は、このように人をご自身のかたちとして創造された。]『神のかたちとして彼を創造し・・・』と書いてあるここ、ちょっと細やかなことを一点言いますね。ここを翻訳では大抵、27節を[人をご自身のかたちに創造した][神のかたちに彼を創造した]と言って、『神のかたちに』を2回繰り返していますが、聖書の原文を読む人はわかりますけど、この初めの方は、[神は人を『ご自身』のかたちに]という言葉の訳ですが、原文では、『ご自身の』とは、書かれてはいないんです。正確には、[人を『彼』のかたちに]と書いてあるんです。

[神はこのように、人を彼のかたちに創造された]と書いてあるんです。この「彼のかたち」という言葉の意味を汲み取って、「あ、これは神様のかたちだな」と思って訳す人は、ほとんど[『人をご自身のかたち』に創造された]と訳しています。そして、もう1回『神のかたちに、彼を創造して』と繰り返します。この2回目の[神のかたちに、彼を創造し]は、そのまま描かれているんだけど、初めの方は、[人を彼のかたちに創造された]という点なんです。

ここ、何が引っかかるのかというと、[人を彼のかたちに]という『彼』って、誰なんだ？ということ。「神様じゃないの？」と、まあ、思うじゃないですか。でも、もう一つの解釈の仕方があるんです。 35:24.71

[神は、このようにアダム（人）を『彼のかたち』に創造された]ということは、[人（アダム）を彼（アダムという固有）のアダムのかたちに創造しました。]そして、それは、（二回目）[『神のかたち』に、彼（人）を創造したんだ]ということです。そして、[それは、男と女とに彼ら（人）を創造しました。]と、このように言ってるのではないかという解釈があります。36:07.29

皆さんどっちをとってもいいですよ。どうぞ好きな方をとって胸に納めてください。あるいは両方を納めてください。両方、取れるんだからね。[神は、人を『ご自身のかたち』として創造された]というのも分かっている。何回も言ってるからね。でも、アダムにはアダムの固有の個性と形を持って創造されました。それが、『神のかたち』なんだよと言っているというふうにもとれる。だから、それは、男と女とに分けられるんだよ。『男には男、女には女の固有の神のかたち』なんだよと、いうことですね。 37:16.26

だから、私たち出会う時に「ああ、男同士だな」とか、「あ、女同士だな」とか、そんなことはもう見たら分かるので、もう通り越して、「この人はどんな神の子なんだろう。」「この人の内から、どんな神の輝きが放たれているんだろうか」と私たちは目を見張りながら出会うのです。 37:55.54

男と女とに彼らを創造されたから、「あ、男か、女か」というんじゃないくて、「神にあって、どんな男の人ですか？どんな女の人ですか？」と。それは『神のかたち』だからです。はい、そうそういうことを一章から先月言いましたことも従々含めて、見てきたわけです。38:57.38

それで、1章の創造の話の中でクライマックスがある。それは、この『人が造られた』というの、もちろんそうです。「あ、自分というのは、そういう人なんだ。そういう存在なんだ」と皆さん、自覚しましたか？ しっかり、自分の内側で、自分を認識した方がいい。じゃあ、自分ってどういう神の子なのかな？神様に造られた、神に似せて造られた私って、どんなものかな？というクライマックスがあります。39:51.23

5C②キングダムセミナー 20250208

次、2章の1節から3節。これが第七日目でした。[こうして、天と地とすべての万象が完成された]これは、万象と訳しているけれど、『万軍』という言葉が使われています。万軍の主がなされるという表現が。万軍の主が、こう言われるという表現が後ほどよく出てきます。

[こうして、第七日目になさっていたわざの完成を告げられた。すなわち第七日目に、なさっていたすべてのわざを休まれた][神は、第七日目を祝福し、この日を聖であるとされた]41:00.46

第六日目に造られた私たちの翌日の七日目、人の第一日目は、休みだったのです。第六日目に自己認識ができて、第七日目に休みが与えられた。そして祝福し聖別されたと。神様が『これは私のものだ。』と。『私と共にあるものだ。私の内にあるものだ。』と、神様が休みを宣言されたんです。41:53.50

それで、天地創造は完成した。「終わったと思いきや、ちょっと待ってくださいよ。」ってところを言いましたよね。前に2章の第3節の一番最後の原文に一言付け加えられていると言いました。それはどういうことかというとならば第3節の最後の言葉を加えて読んでみると、こういうなるふうになります。

[神はその第七日目を祝福し、この日を聖であるとされた。それは、その日に神がなさっていたすべての創造のわざを休まれたからである。造るために。]というふうになります。「なんだよ。終わったんじゃないの？造り終わったんじゃないの？」と突っ込みを入れたくなるけど、一番最後に、『それらはまだこれから造るためなんだ』という一言を残しているわけです。43:23.79

だけど、創造の物語についてのほとんど、歴代、解釈の関心の薄さから、その原文の一番、最後についている一言に目を留めるということは、あんまり、ありません。だけど、神の一点一画も、それが有益であるならば、私たちは読まないといけない。

神様のこの一言は、なんですか？ 全てを造り、私たちの内に充満させ、これからですよ。そして祝福し、祝福を満たして休みを満たして、安息を満たして、『さあ、造るためにいこうではないか』と呼びかけているんです。『誰に？』それは、『あなたに』ですよ。我々、一人一人に。

でも、神様がこれから造られるものというのは、どんなものか、ということ語り始められたのが、この『エデンの物語』なんです。だから、『エデンの物語』は、神様が『さあ、造ろう』と言われたその第一歩。一つ一つを神様は、慎重に造っておられるわけです。

5C②キングダムセミナー 20250208

次、2章の4節「これは天と地が創造された時の経緯である。神である主が、地と天を造られたとき、」

・・・ここ、面白いでしょ。この4節。・・・ああ、こう私のくせで、もう一語一語に引っかかりだしたら、みんな言わないと気が済まなくなってしまう。ごめんね。・・・でも、言っちゃったから言うけどさ、この4節、一行目は、[天と地が創造され]と書いてあるけど、2行目は、何よ、[地と天を]と書いてあって、[天と地]が「地と天」に逆になっているでしょ。なんで？こんなところ、気にならない？「そこまで突っ込みますか？」と言いますか？でもね、こう書かれているには書かれている意味が何かあると思いませんか？みなさん、考えてください。なんで、初めは、天と地で、あとは、地と天なんでしょう？私、今の答えは言わない。どうぞ、考えて下さい。

46:42.16

参加者の方で、ぜひ言いたいという方がいらっしゃいます。どうぞ。

参加者:初めは、神が天を創造された時の経緯であるという神様が創造したことを言っていて、地と天というのは、神様がこれから地で、私たちのところでしょうとしておられることに重点があるので、これから語ることに對して、地と天と言われたのではないかと。神様が、初め創造したのは、天と地だったので。その表現の違いではないかと思えます。

先生:どうですか？みなさん。

参加者:5節の初めに、[地には]と書いてあるから・・・

先生:そうだよ、5節に書いてあるよね。これ、答えだよ。

だから、4節のこの2行は、初めの行は、1章の七日間の天と地を指しており、2行目はこれから語られる。エデンの物語のことにかかっていると。1章の創造物語と2章の創造物語。「なんだ。全然違うじゃん」という突っ込みが巷でよくある。どっちなんだよ。でもどっちも真理です。48:54.14

でも、神様が語りたい視点が違う。それだけこっちの見方とこっちの見方と、2つ以上ないと語りつくせないところがあるわけ。だから、これ矛盾じゃないんです。1章の7日間の創造というものがあって、それを土台にして神様が地を造るという、これから始めるわざにずっと、こうズームアップしているわけです。主が私たちの目をズームアップさせて、そこにもっと細かな明らかな真理を語りかけておられるということになりますね。49:57.79

では、次にいきますよ。

3節[地には、まだ1本の野の灌木もなく、まだ1本の野の草も生えていなかった。芽を出していなかった。それは、神である主が地上に雨を降らせず、土地を耕す人もいなかったからである。]・・・まだ1本の木もなく草もなかった。それは雨を降らせていなかったからだ。何故ならば、土地を耕す人もいなかったからだ。すなわち、キーであるのは、土地を耕す人がいるかないかということなのか。50:47.33

6節[ただ、霧(水)が地から立ち上り、土地の全面を潤していた。]・・・これ『霧(水)』と訳されているけれど、これ、色々と言われているんです。『地下水』が、『泉』がというふうにもとれる。そうすると、『土地』って乾いていないよね。もう泉のように湿地帯のようになっていたのか、という表現になる。

5C②キングダムセミナー 20250208

その後、7節[神である主は土地のチリで、人を形造り、その鼻に命の息を吹き込まれた。そこで人は生きものとなった]・・・簡単な文章で、人を造った表現が2章ではなされています。『土地のちり』というけど、これ、とても湿ったちりだよ。このようにエデンの初めというのは、この初めだけでなく、創世紀の1章の7日間も2章も、皆さんほんとに、主役的に存在の土台に横たわっているのは、なんですか？ 水です。これ、無視できないんです。水がたわわにある。そして、その水を含めたちりで、形づくり、鼻に命の息を吹き込まれた。52:57.44

それから、『息』という言葉は、人間の吐く息の『息』だけれども、お分かりのように、神様の表現は、我々の肉体を通じて霊的なこともそこに合わせて、表現しているんです。我々の今の現代社会では、ズバリそのもの、霊なら霊、物質なら物質。空気なら空気というけれど、この神様の太古の表現の中で、その辺の肉体的な表現を、霊的表現に、合わせて言うんです。すなわち、[神の命の霊を吹き込まれた] んです。これは他の動物や鳥には決していないんです。[そこで人は、生きものとなった] というんです。動物や鳥の生きものとは違う『存在』です。神の命を持ったんです。54:16.73

8節[神である主は、東の方エデンに園を設け、そこに主の形造った人を置かれた。]・・・箱庭の中に人形を造って、ちょこんと、真ん中に置きましたという、そんなイメージじゃないよ。この『置かれる』という言葉は、『任命する』という意味合いの『置かれる』なのですから。54:53.12

そして、9節[神である主は、その土地に、見るからには好ましく、食べるのに良いすべての木を、園の中央にいのちの木、それから善悪の知識の木を生えさせた]・・・この木のことはもう、誰もがよく知っていますよね。クリスチャンでなくたって、もう世界中の人が、創世紀の神話として耳に入っていますよね。でも、ここ、[神である主は、その土地から、見るからに好ましく、食べるのに良いすべての木を生えさせた]って、なんのことを言っているんですか？というのが、ここでポーントと疑問に思っちゃうんです。誰でも。55:58.40.

『いのちの木』って何でしょう。『善悪の知識の木』って何でしょうか？と、思うんですけど、聖書は、神の語りかけは、この後すぐにその説明をしてくれない。

エデンの園を設け、そこに人を『任命した』んだ。なぜならば、全てのものを『治めるために』置いたんだ。神様がこれから造ろうという神様のパートナーとして、神のいのちをもらって、そこに置かれたんだよということです。これ大きなポイントなんです。神の命を持って、神とともに造るパートナーとして、私達が置かれたんだということです。57:09.85

でも、ここで、いのちの木と善悪を知る知識木の実の話をここで続けなくて、一旦別の話を差し込んできています。10節[一つの川が、この園を潤すため、エデンから出ており、そこから分かれて、四つの源となっていた。]11節[第一のものの名はピション。それはハビラの全土を巡って流れる。そこには金があった。]・・・なんの話を始めるつもり？というふうに思ってしまうけれど、でも、話をたどれば、エデンの園、神様が造ったものの根底に、いつも水があったんでしょう。水が大切であり、水がいつもあったということを思えば、ここに10節の言葉[川が園を

5C②キングダムセミナー 20250208

潤すために、エデンから出ており、そこから分かれて、四つの源となっていた]という表現は、なるほど、なるほどと、思えますよね。ただ他の話を差込んでるだけじゃないぞというわけです。

でも、この川は何よと。最初の川は、ピションと言ってハビラの全土を巡って流れる。そこには金があったんですって。で、12節、[その地の金は、良質で、また、そこには、ペドラハとしまめのうもあった]と書いてある。みなさん安心して下さい。このピションという川は、今どの川か分かっていません。ハビラの全土というけれど、何処のことかと推測でしか今、分かりません。わかったら大変だよね。みんなゴールドラッシュが生まれます。とにかく、良質な金があり、そこには、ペドラハとしまめのうもあると書いてある。ペドラハって何よ。しまめのうは、分かるけど。いわゆるもう天然の非常に高価で、美しい価値ある宝石類ですよね。金だけじゃなくて、そんなものもあるんですって。59:58.20

そして13節[第二の川の名はギホン。クシュの全土を巡って流れる。]・・・クシュというのは、今でいうエチオピアあたりのことではないかと言われているんですが、それも正確なところは、わかりません。

14節[第三の川の名は、ティグリス。それはアシュルの東を流れる] アシュルというのは、アッシュュリア。
 第四の川、それはユーフラテスである] これは、このままですね。今でもそうだろうと言われている。1:00:43.30

さあ、これだけ広範囲の大きな川がエデンから出ており、そこから分かれて 四つの源となった。どういうことですか ? これエデンの中の話だけじゃないの? エデンの外の世界のことを、ここで描いている。 1:01:02.80

だから、端的に言うと、この金とか宝石とか、それが良質だとかという言葉で表現されているけど、いわゆるこの後の時代で培われて、賑わっていく、いわゆる人類社会の増え広がったところにでき、増え広がって築き上げられていく『文明』というもの、そして『産業』、そして人間の『文化』、それら全てのものの根源はどこにあるんですか? エデンにあるんです。エデンから、人間の文明も、文化も、いわゆる金融も芸術も全てのものは、この『エデン』から流れ出ていくものなんだよと。そのように神は造ったということです。 1:03:03.25

それも、「本来は、」です。ところが神を忘れた文明、文化というものは、今満ちていますけれど、神の設定は「文明」も「文化」も「科学」も「芸術」も全ての人が築き上げていく豊かになるもの全ての根源を、この『エデン』というところで、神と人が築いていくものなんだよと。

ですから、15節[神である主は人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。]となっている。これ重要な言葉。何のために? 神とともに、そこを耕し、そこを守るのか。それは、「あなたよ。あなたが住んでいるちょこっとした周りの畑だけのことじゃないんだよ。あなたの耕す畑は、あなたの生き回れるところのそれだけの領域じゃないんだよ。あなたの畝は、あなたの畑は、この全世界の文明、文化につながっていくんだよ。影響していくんだよ。」ということです。そこまでの『任命』と『期待』と『働き』を私たちに負わせてくださっているんですね。 1:05:31.83

5C②キングダムセミナー 20250208

私たちは、小さな、小さな自分の生きる身の回りの事を、それで精一杯のように感じてしまいますけど、いやいや神様が『造るために』という言葉は、もっと深いんです。

*『造るために』というのは、日本語の聖書では、そこは翻訳されていません。2章の3節の原文の一番最後に付けられているんです。

そして、ここまでエデンの園を語ってから、16節に、神様が、話をさっきに戻されます。1:06.47.74
16節[神である主は人に命じて言われた。『あなたは園のどの木からでも思いのまま食べて良い。しかし善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ』]とは、どういうことでしょうか。もうお分かりの方も多いですね。なんで、善と悪とを知る知識の木の実をとって食べてはならないと、神様は命じたのか？ どうですか？ なんでも自分で判断するなよと。勝手にぼんぼんと、ああだ、こうだと。善と悪という概念が、このエデンの園のここから出てくる。

だけど、神はいのちの息を人に吹き込んで、そのいのちによって生きるんだよね。だから、その『いのちの木の実』は、食べるなどは、言っていない。 そうでしょ。ただ善悪の知識の木からは、食べるなど言ったんです。どのように皆さん聞いてきましたか？ セミナーを前から聞いている人は、もう分かっているんですけどね。はい、ちょっと詳しいことを言いますよ。皆さん、目が覚めてる？ 大丈夫ですか？ ラインの皆さんも。1:09.45.94

はい、あのね、そもそも9節に[神である主は、その土地から、見るからに好ましく食べるに良いすべての木を生えさせた]と言っているよね。その次にいのちの木と善悪の知識の木の実を生えさせたという場所は、どこですか？ ちゃんとここに、【園の中央に】と書いてある。なんで、その『中央』でなければいけないんでしょうか？

神様の思う、神の『中央』ってどこですか？ この語りかけを耳で聞いて、伝えられて、人に伝えて、・・・初めに聞いたのはモーセでしょう。で、それから民の一人、一人に伝えられて、また別の人に伝えられて、語られてきているその時代の人たちにとって、『中央』っていうのは、何を思わせるんですか？ 1:11:18.84

出エジプトの荒野の中を突き進んで、何十万、何百万といるといいうイスラエルの民の12部族が、それぞれ固まって移動する。前進して宿営していたんですよ。その彼らにとって、我々の民の『中央』と聞けば、ピーンとくるんです。そこに、神の『幕屋』がおかれ、神の幕屋が前進していたんです。『中央』と言えば、『神の臨在』なざる、神の中の中、神の存在のその中心を意味する『中央』に、『いのちの木』があったんです。で、善悪の木もあったんです。 1:12:32.82

ということは、いのちの木も善悪の木というのも、その他の木とは、タイプも種類も趣も意味合いも、全然違うものだという事が言えます。その中の特に、『善悪の知識の木の実を取るなよ。取ってはならない』という。それは致命的なダメージを与えるものだと言われたわけよね。『神のいのち』もそうですけれど、『善と悪を決める』というのは、・・・それは究極的に、神様しか出来ないことです。 1:13:33.61

「善と悪とを判断してしまうということは、究極的に神でなければ出来ないことです」と言ったら、そしたら「善

5C②キングダムセミナー 20250208

も悪も何も考えなくても良いんですか？」と質問したくなるみたいです。「生活していくには、やっぱり善と悪が必要になるじゃないですか」と。善と悪とを究極的に見極めるということを、私たちがし始めると、私たちは、神にとって変わることができるかもしれない。神の判断、神の思い、心、価値観を、自分の心に溶かし込むことなく、神によりたのむことなく、神に問い合わせることなく、「我々は独立独歩で全てをやり遂げることができるかもしれない。」という思いが出てくることのゆえに、『それを取って食べるな』とっています。1:15:26.50

これは、よく私たちが学んできて聞いてきたことですね。ところがもうちょっと深いことを聞かなければなりません。というか、・・・すでに、あちこちで話してますからね。今ニコニコしている人は、もう聞いているよね。

ここ、もう少し詳しいことを言うよ。キングダムセミナーだから、言いますけど、どうぞ皆さん、眠い目をこすり上げて、ほっぺたを叩いて聞いてくださいね。1:16:15.72

このね、9節、[神である主は、その土地から、見るからに好ましく、食べるのに良いすべての木を生えさせた。園の中央には、いのちの木、それから善悪の知識の木を生えさせた。]・・・ここで1回、さらっとこの状況を語って、もう一度、川の話を含んで、16、17節に戻ってくるという、この『二重の書き方』。この書き方の中に、『この語りかけを味わえよ』と、いかに言っているかということです。1:17:13.13

16節に[神である主は、人に命じて仰せられた。『あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べていい』と言い始めるその直前に、川の話があって、15節はその前提となっていて、[エデンの園に置き、そこを耕させ守らせた。]と書いてある。ということは、耕したり、守ったりするには、知恵が必要です。知識が必要です。技術が必要です。そうでしょう。そして、食べるものも勿論必要。

だから、命じて仰せられた。「どの木からでも、思いのまま食べて良いぞ。しかし、善悪の知識の木からは、取って食べてはならないぞ」と。・・・で、このところなんですが、日本語の訳からでは、全く分からないけれど、『善悪の知識の木』の単語は、ヘブライ語では『それから (ミメヌー)』という言葉なんです。

1:18:47.71

つまり、原文では、[それから、取って食べてはならない]と書いてある。[それから]の『それ』と指している原文の「ミメヌー」と言う言葉なんですけど、これってね、複数系にも使う言葉なんです。今、原文を見ている人、「ミメヌー」って書いてあるでしょ。その『ヌー』という言葉、・・・これね、聖書の他の箇所では、単数を指していたり、複数を指していたりもするんです。が、複数を指していることの方が多いんです。

ということは、善悪の知識の木ではなく、[『それら』からは、取って食べてはならない]と、言っているのであれば、この『それら』と指している『それら』は、何か？1:19:43.95

『それら』は、何かというと、・・・16節[神である主は人に命じて仰せられた。あなたは、園のどの木からでも、思いのまま食べてよい。]と、一回は、わざわざ『どの木』からでも食べ良いと言っているんですよ。その上で、これらからは食べるなど、いうこの言い方ですよ。1:20:07.30

5C②キングダムセミナー 20250208

『それ（単数）』からは取って食べてはならないという、善悪の知識の木の実、その一個からは、食べてはならない」とも受け取れる。けれども、園にある『どの木（複数）からでも』ということは、見るからに良く好ましく食べるに良いすべての木である善悪の知識の木の実も、そこに含まれているという取り方も、できないでもない。1:20:45.29

そうだとしたら、善悪の知識の木、いのちの木というのは、中央に置かれた、このポツンとした木と言うけど、神様がこの描写と字義通りのことから言おうとしているのは、何なのか。

「あなたがたは、園のどの木からでも、思いのまま、すべて食べて良い」と神様は言ってる。けど、『すべての木を、善悪の知識の木の実として、食べてはならないんだ』と、神様は言いたいのではないのか。

1:21:39.45

「いのちの木の実を食べるな」とは言っていない。すなわち、『それら』から、いのちの木の実として、すべての木の実を食べるのは良い。1:21:53.61

しかし、『すべての実を、善悪の知識の木の実として、食べてはならない。そしたら、あなたがたは、このエデンで生きる関係性に死にますよ』と言っているのではないか、ということです。

参加者:じゃあ、善悪の知識の実と思わなかったら食べてもよいんですか？

先生:善悪の知識の木の実じゃなかったらね。というか、『善悪の知識を知るもの』としてでなかったらね。

参加者:そういうふうに思わないで、食べることは良いんですか？

先生:うん。

参加者:じゃあ、その『善悪という判断』は、何処で分かるんですか？同じように見えるから・・・。

先生:だから、そこですよ。だから、『善悪の知識の木の実』とは、どういうことかという質問ですね。

私たちが生きるすべての作業。エデンの園でやる、耕すこと、守ること、そして食べること飲むこともそう。人との関わりもそう。神様との関係もそう。それを善か悪かと、いちいちこれをやったら、神様が喜ぶか、怒るかとか、これをやったら、あの人が喜ぶか怒るか。いいことなのか、悪いことなのか、ということの判断を強いられる人生しか人間にはなかったら、それは常に、いのちのない寂しいことですよ。

いわゆるもう立法主義のバリバリ。立法主義のコチコチ。『いのち』なんて、どうでもいい。自分がやっていることが正しいことなのか悪いことなのか。自分に当てはめるだけではなくて、それを見た人に当てはめる。当てはめるあの人は正しいことをやっているとか、あの人は間違っているよねと、自分の今の判断力で。全部当てはめて、考えて適応していこうとする。そういう関係性で生きようとする。神様に対しても。善悪の知識の木の実として、我々が、今日の作業を生きるなら、本当に切羽詰まった、苦しい苦しい一日になります。1:25:03.47

ですから、神様の言おうとしているのは、いのちの息をあなたに与えた。その息は、この天地を神と共に向き合って造ったその自由さ、その本当に暖かさ。いわゆるそこに、神の自由と愛がある。しゃっちほこぼった堅苦しい、何か作業がそこに、真理があるわけではないんです。 1:25:54.83

パウロが言っているのは、それです。キリスト者の中に、神は生きるあなたの『自由』を与えてくれたんです。『いのち』を与えてくれたんです。立法の、善悪の全ては乗り越えられて、「私たちは、自分の生き生きとした神の愛といのちの中で、今日の作業を表現するんだ」ということでしょう。

これを食べたら毒か栄養か、というのを真剣に考えます。必要ですよ。そりゃね、良いもの食べないと。でも、食べて、それが善か悪かというよりも、私達は全て食べるものを、自分の『いのち』として、祝福して感謝していただくのが基本なんです。それを一つ一つ、ああだから、こうだからと言っていたら、喉が詰まってしまう。そうでしょう。 1:27:28.25

いいですか、賢く聞いて下さいね。

我々が自分に与えられた知識、科学というもので持って、日常、そんな毒を選んで食べませんよ。そりゃあ、いい物を選んで食べるんですよ。けど、それが行き過ぎてね、生活の端々に、1つ1つ、そればかりを『善か悪か』と言って、当てはめてたら、・・・それをやっていくと喉が詰まってしまいます。

私たちの命は何ですか？イエス様は、何のために来られた？

「あなたがたは毒を飲んででも死なない」とまで言われたんですよ。「なんで、そんなこと言うんですか？イエス様。ちゃんと健康のことを考えて、毒飲んだらだめでしょ。」って言いたいじゃないですか。現代人だったらね。でも、『あなたがたは、たとえ毒を飲んででも死なない。』と言われた。なんで？

いのちに生きてるからです。 だから、悪霊は出てゆき、あなたがたによってサタンは怯えているんだと。いのちの発想、いのちの考え方、生き生きとした、人を生かす『いのちの言葉』を我々は語り、受け取るんです。 1:29:00.81

だから、親が善悪で満たされて、それで生きてたら、子供は大変ですよ。あれしちゃ駄目、これしちゃ駄目。あれ駄目これ駄目。こうしなさい、あししなさいと言って、もうバチバチ上から言われることになるじゃないですか。そうやって育てられてきましたか？・・・どちらかというと？ そうですか。ねえ。そんな人が多いかもしれない。でも、いのちの母親にならないと。我々は、これから、いのちの“じいじ”と“ばあば”にならないとね。そういうところを、一皮二皮剥いて掘り下げていけるということです。

今話したことは、原文からこうも読めるというところから言っているんですよ。私が勝手に想像して言っているじゃあ、ありませんよ。だから、皆さんは、どれをどの程度、心に留めますか？というのを、ご自分でどうぞ選んで考えながらやってください。

はい、じゃあ今から休憩に入ります。後半、また大切なところがあります。

後半

はい、後半を始めます。何度も聞いたことのある方々もいると思いますが、いよいよそれが定着して、深く思い巡らすことができるなら幸いです。00:22.90

さて、前半の続きですが、17 節までいきました。『あなた方は必ず死ぬ』なんて言われちゃってね、善悪の知識の木の実の話を終えて、いよいよその後で、アダムにもう ひと押し、もう一歩、アダムに対する創造を始められるんです。

ここで、エデンの園の情景を神様が語っておられる。私たちの内側に造られるエデンの園が、それぞれの内側にあります。

18 節その後、[神である主は仰せられた。『人が ひとりでいるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう』]と。・・・これ、どうですか？これまで神様はそれを見て「良かった。良かった」と言ってこられたのに、ここで初めてですよ。神様が『良くない』と言ったんです。こう言われるからには。本当に良くないんでしょうか。2:40.15

わたしはアダムのために、[彼にふさわしい助け手を造ろう。]と。ここで言ってる『アダム』というのは、アダムの固有名詞、名前じゃないですよ。男の名前じゃないですよ。アダムという『人』のことを言っているんですよ。

原典では、『彼』と訳しているんだけど、確かに男性形の『彼』が使われているんだけど、男性でも、女性でもはつきりしないものにも、原語ヘブライ語では、男性形を使いますから。だから、ここで敢えて[男が ひとりでいるのは良くない。わたしは男ために男にふさわしい助け手を造ろう]という強調があるんじゃないですかね。そこを押さえてきましょう。3:57.49

そもそもですよ。その 1 章の 7 日間の創造の物語の中で、神様が私たちに語られたのは。1 章の 26 節に、[我々に似るように、我々のかたちに、人を造ろう]と言われました。なんで？『我々』という複数なのか？

神様って唯一でしょう。一人でしょ。それなのに『我々』と複数で言われるからには、これには、いろんなそこに理由付けが考えられます。もう皆さん、色々聞いてきたと思います。これにはいろんな皆さんご存知の理由があるんですよ。4:37.98

例えば、神様がすでに造っていた天使たちと相談したから。だから我々なんだと言われる説と、我々というのは、父と子と聖霊という、三つにして一つの唯一の神の語られ方なんだという説と、それからもう 1 つは我々に似るように、我々のかたちに人を造ろうというのは、既にこれから造られたアダム（人）も含めて、我々の中に入っているんだという読み方さえあるんです。皆さんどれがいいですか？父、御子、御霊だよね。クリスチャンだもんね。

5C②キングダムセミナー 20250208

けど、その他の『見方』もあるんです。聖書の原文から言ったら、うん、無理もないなっていうところもあるんです。そこを、みていきましょう。6:17.78

私も新約聖書の観点から言えばね、御子も天地を造られる時にいたんです。その時聖霊も。ということは、やっぱり三位一体の我々と、それを私とだけ言わないで、我々という表現の中には、**神様は、『私とあなた』というその共同体性の神様なんです。『複数にて一つなる』という『共同体』を表すことができる神様なんです。そう**ということが言える。7:08.22

だから、**神様が『我々』と言っている**んでしょう。父、御子、御霊は、一つ。一つ、一つの人格を持ちながらも一つです。ということは、**我々の頭では計り知れないこと**なんです。これ。そんな人間の頭でバンクするような計り知れないことを言うのかよと、昔から反対されたんです。けど、そこに、**神の奥義、神秘があるんだ**よと、アウグスティヌスがしっかり言ってくれたんです。それから、三位一体という言葉は、聖書にはないけれど。神の共同体性を現わしているんだということの理解がなされてきたんです。8:08.75

ですから、我々に似るようにアダムを造ったんでしょう。だけど、**アダム 一人じゃあ、まだそれって神様の言う我々に似てない**よね。一人なんだから。『我々に似るように』だったら、アダムも**共同体性を現わさないと**いけない。だから、彼（アダム）のために、彼に『**ふさわしい助け手**』を造ろうと神は言った。8:51.33

その時、アダムはどう思ったと思う？人の気持ちに敏感な皆さん、アダムの気持ちを考えて見て下さい。アダムは、喜んだだろうね。『神様、ほ、本当ですか？神様造ってくれるんですか？ヨッシャー！』ってね。

だけど、ここでこの**【一人でいるのはよくない。彼のためにふさわしい助け手を造ろう】**というこの**『ふさわしい助け手』という言葉が、鍵なんです。**・・・今、参加者の方から、『助け手』ではなく同等として分けられたのだから・・・という声がありました。この『助け手』という言葉に引っかかるよね。この言い方、どうなのよと。これをちょっと説明しましょう。今度は、耳だけではなく、目もよく擦ってくださいね。

実は、この『助け手』という言葉の理解が必要です。何度も聞いてこられた方はわかっておられると思いますけれど、ヘブライ語で何度もそこに戻っちゃうけど、ごめんなさいね。ヘブライ語難しいからもう嫌という人も、そう言わないで、聞いて下さいね。だって、神様がその言葉を使われたんですからね。11:42.80

ホワイトボードにヘブライ語で、**עֶזְרָא קֶנֶגְדּוֹ** エゼル ケネグドーと書かれる。
はい、これが**『ふさわしい助け手』**といわれる言葉です。右から左へ読んでいきますからね。エゼル ケネグドーと読みます。

「ケ」っていう言葉は、「～として」「～のような」という言葉の意味を指します。で、最後の「ドー」この言葉は、「彼に」「彼への」という意味で、「ネゲット」というこの言葉が、問題なんです。この「ネゲット」という

5C②キングダムセミナー 20250208

言葉は、「向かい合うものとして」「真向かいの、真反対の」という意味があります。そして、「エゼル」が「助け」です。13:10.28

そしたら、「ふさわしい助け手」っていうこの訳、どうなのよと、思いませんか？これ、もうちょっと訳し方があったんじゃないの？と思うよね。ところがね、「ふさわしい助け手」というこの言葉が、特に日本語訳聖書では、もう昔から大ヒットしちゃいまして。気に入ったんだね。アダムにちょうどいい「お助けさん」。日本人の感覚だという声が今出ています。これがね、気に入られてヒットしたんです。

だから皆さん、結婚式の時にね、「誰は、誰々さんにふさわしい助け手として、神に与えられました。」と言われたら、もう結婚する時の二人ですから、ラブラブですから、「私はこの人の助け手なんだ」と、もう目から涙がほろっと落ちるほどにね、もうホットな言葉になったんです。日本や英語どころか各国の言葉でこれはなかなか難しく訳されてます。14:58.42

「向かい合うものとして」というのは、あなた（アダム）の目の前に対面するものとして」という意味です。あなたが仕事をする、その耕す、守るという仕事のうしろで、ちょこちょこ、ちょこちょこ付いて回って、「仕事のお手伝いを、助けをします」というのじゃないんです。あなたの目の前に、「向かい合う者」として、「真向かいの」ですよ。それもそれだけじゃなくて、「真反対の」ですよ。つまり、「そうよね、そうよね。あなたの言う通りよ。その通りだわ」と言って、なんでも「はい、はい」「へい、へい」と言う、そんな[ふさわしい助け手]じゃないんです。15:54.94

「それ違うでしょ。」と面と向かって言えるというのも含まれている。「頑として、反対する」というのも含まれているんです。そして、この『エゼル』という『助け』なんですけど、助けというのは、ほんの「補助者」というようなイメージがあるじゃないですか。でも、この『エゼル』というのは、神様に対しても、神は我が『助け』、神が我々を助けてくださるんだという、・・・新約聖書で、『助け主』って誰ですか？イエス様もそうなんですけど、そう、『聖霊』でしょ。[わたしはあなたがたにもう一人の『助け主』を送ります]（ヨハネ 14：16）と言われた聖霊は、単なるお手伝いさんじゃない。家政婦さんじゃないですよ。

そうすると、『ふさわしい』も問題だけど、『助け手』というのも、問題。こう翻訳した時に、ガクーンと質が落ちる。もっと言えば、『エゼル』というのは助けというより何と言ったらいいの？

もっと原典的に言えば、『力』ですよ。『向かい合うものとしての力』を、『向かい合う、真向かいの力』、を『反対の場合もある力』を『新たに造ろう』と言ってるわけ。

だから、先程、アダムは男という意味で言ってないと、言いましたよね。男じゃなくて、『人』として、一人の単数の人であることは、ふさわしくないんです。我々に似てないから。というふうに受け取るべき意味合いも多いんです。18:26.57

私たちはすぐに、アダムは男だから女を分けて造ったと、そっちをまず意識して、その方に話がいきます。だから、男と女との夫婦の関係性として、女は男のお手伝いさんとして造られたと、安易に受け取ったりしました。

5C②キングダムセミナー 20250208

けど、神様が、父、御子、御霊の共同体制を土台において、アダムを造り、アダムを『我々に似るように』造ったとしたら、この『向かい合うものとしての力』というのは、その性別に関係なく、一人の『人』として、私達が誰かと出会う、向き合うという、そういうことを、まず最初に原点として持ってこなければおかしくなりますよ。安易に男と女の「夫婦の関係」にしています。ここは、『人と人との向き合い方』を言っている。そこにまず、目を留めていくべきかなと、思います。21:00.89

次、19節[神である主は土からあらゆる野の獣と、あらゆる空の鳥を形造り、それにどんな名を彼がつけるかを見るために、人のところに連れてこられた。]・・・また、話が何？今度、野の獣を造るの？え？『ふさわしい助け手、エゼル ケネグドー』を造るんじゃないの？と思いませんか？けど、神様は、野の獣を造り始めた。空の鳥を造り始めた。何のために？それにどんな名を彼がつけるかを見るためだった。どんな名を付けて欲しかったんですか？このことは 何ですか？21:11.84

神様は『ふさわしい助け手（エゼル ケネグドー）』を造ろうと言われたのに、エゼル ケネグドーというのは野の獣か、空の鳥だったんですか？神様は、エゼル ケネグドーとして、野の獣や空の鳥を連れてきましたと言ってるんですか？そうじゃないんですよ。何のために連れてきたかという、それに人(アダム)が、彼が、どんな名をつけるかを見るんだと。ここにどんな神様の気持ちがあるんですか？[生きるものにつける名は、みな、それがその名となった]んですよ。22:10.75

創造の七日間は、神様は名前を付けましたよね。[光を昼と名付け、闇を夜と名付けた]それから始まって、名付けて、名付けて、また名付けていったんですよ。それを人間が、神のパートナーとして、これから共に造ろうという世界の中で、神様は早速、自分のパートナーに、神様がしてきたことを、することをなぞらせて、神の力を、権威をそこに現そうとされているんです。23:05.19

つまり、この『向かい合うものとして』『真向かいの』『時には真反対の』というこの関係性で、神の動作をアダムに任せようとされている。この両者の関係性というのは、新約聖書を知っている私たちは、知っています。父と御子と聖霊との関係性の中に、ピッタリそこに、ここにあるものだという事なんです。23:49.45

え？イエス様が、そんな『真向かいの』『真反対の』って・・・そうですよ。[父よ。この杯をできることなら、私から遠ざけてください。]と言われた。そうでしょう。肉体を持ったイエス様は、十字架にかかって死んでいくということをわかってはいたけど、父なる神に、あのゲッセマネで『真向かい』だったんです。そうでしょ。真向かい、向かい合うゆえに、[父よ。あなたの御心でしたら、この身になりますように。]と、そういう、もがきとぶつかりがそこにあるわけ。

だから、三位一体の関係性というのは、それだけ、真正直で真実なんです。そこには魂的なうわつらの、見せかけのものはない、おもねりも遠慮もない。そういう三位一体の関係性を持つものとして、造ろうと。そういう『ふさわしい助け手（エゼル ケネグドー）』を造ろうといった神様が、言われたんです。

ですから、アダム(人)の方では、「神様に似た三位一体の関係性を持つものを、私は得るんだ!」と。「私に造ってもらえるんだ!」「出会えるんだ」ということだから、アダムの喜びは相当なもんだったと思いませんか?「よっしゃー!ヤッター!」と、それどころじゃないですよ、きっと。もう全身が震えるぐらいの喜びですよ。25:54.92

そこで神様が、野の獣と空の鳥を造って、アダムのところに連れてきた。「どうだ?」という感じ。アダムはその獣を見て、鳥を見て、この(神に似た)関係性を持つものとして捉えられたか?捉えなかったんでしょ。三位一体の関係性を持つもの、それと同等の存在をアダムは、野の獣や空の鳥からは見つけなかった。でも、その動物たちに、彼は名前を付けたんです。神がそれを求められたから。だから、動物 1つ 1つに名前を付けたら、「その動物につけた名前が、その名となるのであった」と書いてある。26:55.31

神様が名付ける。神様が命名する。神様が、この人は、こうだと、見定めたものをアダムも同じように、自分の前に連れて来れた動物を『エゼル ケネクドー』に、ふさわしいのかどうかというのを見定めたんです。それが神がアダムに求めたことなんです。それが見たいと。だから、鳥は鳥だけど、1つ 1つの名前に名前を付けないといけないわけだからね。これ、ものすごい時間がかかったと思いませんか?一舜のことじゃないですよ。アダムが 1つ 1つ、目の前にして。三位一体の関係にふさわしい、『私と向かい合うもの』なのかって。だけど、向かい合わないんですよ。・・・この動物は、蟻ばっかり食って。だから向かい合うものではない。これはアリクイだとかね。笑

だから、人間が名前を付けるということは、『力』なんです。・・・ですから後で、[これこそ、今や・・・]といって名付けているでしょ。これはアダムが連れてこられた人をこう呼んでいるんです。「イーシュから生まれたから、イシャーと呼ぼう」という風に、これアダムがそういうふう呼んだわけです。アダムに啓示がきたわけ。これこそ三位一体の関係性にふさわしい相手だと、啓示がきて、彼は口からそれを告白したんです。

この王権、どうですか? 皆さん、私たちもこんな大げさなことをいちいちいつてるのじゃないけど、自分の今、向き合っている現実、家族の現状に、職場の現状に、自分の壁に、自分の環境に、あるいは自分自身に、あなたはなんと呼びますか? [あなたが呼んだ『その通りになる』のであった] なんです。はい。

だから、神の権能と御国の関係性に目覚めれば目覚めるほど、私たちは、自分の身に起こってくることを見ること、出会うものすべて、それを自分の啓示から、どう見るか、どう判断するか、どう名前を付けて呼ぶか。それに依るんです。30:42.47

ですから、「神様何とかしてください。これをどうぞ助けてください。」と、祈る気持ちは分かりますよ。祈りたかったら祈ったらいんです。けど、その祈りが、ただ神様任せで、「神様、あなたが何とかして下さい。私、何にもしませんから」ということであつたら、このレベルじゃないんです。

5C②キングダムセミナー 20250208

神様助けてくださいと、祈る心は分かります。祈りたければ、祈りなさいよ。だけど、それよりも神の啓示と王権の判断力によって、御国の中で、御国のレベルの中で関係性の中で、これは私はこう名付ける。神の国の中で、この事件は、私はこう名付けると。我が家族に起こっているこれは、私はこう名付ける。そしたら、あなたの名付けたことに誰も抵抗できません。すべては、あなたの名付けた通りに動かざるを得なくなる。31:59.44

そうです責任があるんです。だから、「私は何もできません。罪人です。どうのこうの、神様どうぞやってください。お願いします。」というのは、それは、初歩です。私たちは1つ1つ成長して、今や神の国のレベルの関係性に入っていくんです。「あ、この人が、御国の権威でこう呼んでいるんだ。それじゃ俺ら手出しできんな。引き下ろうか」「この人が、こう名前を付けたんだな。じゃあ、他へ行こう。」と言って、悪霊の社会では、みんなそう嘆いていますよ。これ、どうですか？

そして、20節「人々はすべての家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名をつけた。しかし、人にはふさわしい助け手が見当たらなかった」・・・ここ、『ふさわしい助け手（エゼル ケネグドー）』が見当たらなかったと言っているんです。そこで21節「神である主が深い眠りをその人に下されたので、彼は眠った。」・・・そうですよ。人間の頭や魂が邪魔する時は、神様はその人を眠らせますからね。ほんとに神様が何かやろうとする時、もうあなたのそのうじうじした魂、グラグラする魂を、ちょっと黙っとけと言って、ね。「もうちょっと、寝てなさい」と言ってね。21節「・・・そして、彼のあばら骨の1つをとり、そのところの肉で塞がれた。」こうして22節「神である主は、人から取ったあばら骨を一人の女に作り上げ、その女を人のところに連れてこられた。」

ここで、よく女性たちから「なんであばら骨なんですか？」と言われます。「私は、男のあばら骨ではありません」と。でも、この『あばら骨』というこの原典の単語を、『骨』と訳しているのはここだけなんです。他は、みんな『脇』あるいは『側面』と言われているんです。だから、脇腹から取られたと言うんですけど、・・・それは、原文のここに、『一つ』という『エハーッド』という言葉がついてるからなんです。一つの脇腹っていうのもおかしいから、一つのあばら骨だろうということで、『骨』となっちゃったんです。35:46.15

ユダヤの伝統でね、一つのジョークがあるんですけどね、ここで「女が足から造られた」と言ったら、なんだ、足元かといってもものすごく下に見られるじゃないですか。それはよくない。「じゃあ頭か」と言ったら、え？アダムの中？じゃあ、アダムを支配するものかと。それもよくないと言われるでしょ。そしたら、「アダムの口か？」って。そんなのダメだって。そんな口から造ったら、おしゃべりな人になるから良くないって。うん、それは良くない。おしゃべりは良くない。そしたら「手か？」と言ったら、もう黙って、ああだ、こうだって、やり始めるから、もう手も良くない。そんなことを言って、神様が「脇」にしたという。これ、ジョークですよ。そういう話。でも、真理をついていて、ね。

『脇』というのは、その人の一番敏感なところ。そうでしょ。そして心臓に近く、頭が西に向けば、脇も西に向き逆に脇を左に向けたら、頭も左に向くという、こういう本当の人間の体の敏感なペアを指している言葉として、脇が選ばれたんだと。ね、色々考えてるでしょう。昔から。

5C②キングダムセミナー 20250208

それから、ホワイトボードに幕屋の絵をかいて、説明される。神殿の至聖所があって、聖所の建物があって、周りにこうずっと枠があって、前に庭があってと・・・これだけのことを思うじゃないですか。でも、エゼキエル書に、後の世の神殿のことを、ずーっと書いてあるのは、ちょっと違うんですよ。この周りに部屋がいっぱいあるんです。

だから、聖所と至聖所と、前の庭だけだったら、実質あることはあるんだけど、神殿で何もできないんです。本当に、何も出来ないんですよ。何故かという、この脇の部屋に神殿の一切の道具が、ここに積まれているんです。そして、仕事をする祭司たちの部屋も、ここにあったんです。で、これを昔から『脇間』と呼んでいたんです。この『脇』という言葉が、この『あばら骨』と訳される言葉と同じなんです。

つまり、神殿という神が中心にいて、その周りに一緒に、この働きを実質、力あるものにしていく『助け』、『力』が『エゼル ケネグドー』なんです。39:17.59

だから、単にお手伝いさんの、補足する人のように訳されて受け取って、それで『善し』とされてきたのは、この人間社会がいかに男中心の発想であったかということが現れています。社会の在り方そのものが、どうしても、そっちへそっちへと解釈して、・・・そういうふうにして、「善し」としてきたんです。

でも、もう御国の真理、時代になってくると、もうそんなのは昔の話。私たちは語りかけられたとおりのことを、受け止めて、自分のものとしなないといけないんです。40:14.26

だから、アダムがここで、自分の意思で、“エヴァ”と呼んだでしょ。23節[人は言った]と告白したのです。[これこそ、今や、私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを『女』と名づけよう。これは男から取られたのだから。] 24節[それゆえ男はその父母を離れ、妻と結び合い、二人は一体となるのである]・・・このアダムが言った23節の言葉は、ものすごい強調があるんです。『これこそ』、それから、『これを』、それから『これは』、というように。『これ』という言葉が、3回繰り返されていて、ものすごい熱い言葉なんですよ。皆さん。と言って、23節をヘブライ語で朗唱される。アダムの興奮、ここにあり。造られた イシャー(女)の方も興奮したんでしょうね。42:33.41

皆さん、私がセミナーで、何回も言っていますが、この聖書の言葉をグワーツと凝縮して、一つの言葉にしたら、何て言う言葉ですか？これを言った人は、誰ですか？そう、マルチン・ブーバーです。

20世紀の初めに、マルチン・ブーバーという人が、いましてね、この人はユダヤ人で、もちろんトラーやネイビームやケスビームをしっかりと勉強して、そして新約聖書にも通じて、ユダヤ教にもキリスト教にも非常に造詣の深い人だったんです。そのユダヤ教にも色々あってね、ユダヤ教の中のハシディズムという経験主義があって、そこに神秘主義があって・・・、私が思うには、これ私の見立てですけどね、近代から現代ユダヤ教のいわゆる聖霊派とも言える非常にセンシティブな一人だったのではないかと。そのマルチン・ブーバーが、「聖書の言葉を、神の真理を一言で言うと、『我と汝』、『私とあなた』ということですよ。」と、言ったんです。 その当時、聞いてた人はポカーンとして、「何それ？」って感じ。

5C②キングダムセミナー 20250208

でも、皆さん、ここまでキングダムセミナーを聞いて、先月と今月で 1 章 2 章を読んできたらわかるでしょう。
神様は、天地を造られる前から、あなたを知って、あなたを覚えて、あなたに『わたしとあなた』との関係で
 向かい合ってくださいだったんです。『エゼル ケネグドー』なんです。

神様は、あなたに、神の言葉を惜しみなく、語りかけようとしておられるんです。まだ世界が造られてない
 その初めに。1 章 1 節) 他に誰が聞いているか関係がないんです。あなた一人のために、語りかけるんです。

この『わたしとあなた』という神が求められた（神ご自身も求められた）関係を、私たちに下さったんです。
 そこからが、スタートなんです。『私とあなた』なんです。

ところが、これを引きずり下ろすもう一つの言葉があるんです。それは『我とそれ』なんです。『私とそれ』な
 んです。・・・これ水です。私とペットボトの水でしょ。これが『私とそれ』なんです。そうすると『エゼルケネグ
 ドー』の関係で保てるか？保てません。そんなもん。何言っても、何見ても、『それ』になっていく。つまり、何が
 言いたいかというと、『私とそれ』というのも、なければいけないし、あるに決まっているんだけど、『私とあ
 なた』という『エゼル ケネグドー』の関係がいつの間にか『私とあなた』だったのに、『私とそれ』になっ
 てしまうことがある。どうですか？嬉しいですか？私があなただを見てね、あなたを、ああ、ただ、「それね。」と
 いう感じ。それだと嬉しくないよね。当たり前ですよ。47:34.93

私たちは『私とあなた』といって、あなたの中にあるものに対して、向き合って私は『応答』して生きていき
 たいと思うんです。神様は、神の国を『私とあなた』というものに創造したんです。それを、人間は『私とそれ』にす
 ることもできる。そうでしょ。47:56.22

これが、どうなっちゃったかというのが、次の 3 章です。『エゼル ケネグドー』の関係に誘惑が来ます。
 我々家族は、いつも生きてしゃべっているんだけど、でも、『エゼル ケネグドー』の関係で向き合ってしゃべっ
 ていますか？そこが、問われています。

ましてや、神様との関係も、自分が神との分かち合いの中にいるんだけど、いつの間にか、神様とも『それ』にな
 り、・・・「神様って、こうなんでしょ。これ嫌いなんだよね。こうなんだよね。」と、そこには、ほらもう『善
 悪の基準で生きる』ことが始まっているんです。 ですよ。

神と私が、『エゼル ケネグドー』、そして同じように、あなたと神は、『エゼル ケネグドー』ということ。
 そうすると、私の中に『神の命』があり、私の中にもあなたの中にも『神の造られた命』があり、輝きがあ
 る。私とあなたが神とエゼル ケネグドーだから、私はあなたを見た時、私はあなたを見ているんだけど、あ
 なたの中に『神の造られたもの』を見ます。 50:17.31

ですから、マルチン・ブーバーは、こういうんです。私はあなたを見た時に、『永遠のあなた』をあなたの中
 に見ると。同じように、あなたが私を見た時に、『永遠のあなた』を私の中に見るんです。 50:55.72

5C②キングダムセミナー 20250208

だからね、今日始めに言ったでしょ。あなたの存在自体に『奉仕』があるんです。あなたの存在自体に『輝き』があるんです。ここに来て黙って、何にも喋らなくても。隅っこの私、末席を汚していますなんて、もうとんでもないですよ。

あなたこそ、いないといけないし、あなたこそ、ラインで耳を傾けてないといけない。あるいは、録音で聞くあなたに、永遠のあなたが、そこに存在するから。 51:36.06

この現実を、プロテスタントの聖霊派のクリスチャンは、「聖霊の内住、聖霊の内住」と、言っていることを、マルチン・ブーバーは、それを『永遠のあなた』という言葉で、言っています。『エゼル ケネグドー』の神の国を、彼は『我と汝』と表現したんです。

そういうことの中に、生きていきましょう。そこに、神は、我々を創造したんです。もうそこにあなたが、入られているんだということです。

あと何が必要か、私たちが神の前に目を開いて、それを受け入れるだけ。「そうだったんですか。」「そうだったんですねえ。」と知るだけ。 52:39.89

あっという間に時間が過ぎます。はい、今日話した言葉を、単なる知識として、私たちは受け取りません。神の国の現実として、私たちは受け止めたい。そして共に、こうやって対面している皆さん、LINEの皆さん、録音の皆さんのところにも変わりなく、『エゼル ケネグドー』の御国の真理がゆき渡りますように。その限界を突き破っていきましょう。

LINEの皆さん、自分たちは遠くに離れて、耳だけ向けているなんて思わないでね。後で録音で聞かれる皆さん、自分たちは、本当に後でこっそり聞いていると思わないで。そういう時間と空間を乗り越えていきましょう。

それが神様と私たちの現実だからです。神の国は、ここにあるんです。アーメン！
「神の子と呼ばれる」をもう一回歌って終わりにしましょう。

18 番 賛美

皆さん、一人一人の今日一日、この一か月に祝福を解き放します。
神の国の臨在を解き放ちます。アーメン！
はい、ありがとうございました。